

2025 年度 公益社団法人日本技術士会 中部本部 愛知県支部

第 10 回年次大会資料（案）

日時： 2025 年 6 月 7 日（土）13：30～

場所： ツドイコ 名駅東 カンファレンスセンター Room - C
及び Web 開催

報告事項：

第 1 号報告 2024 年度 事業報告、決算報告

第 2 号報告 2025 年度 事業計画案、予算案



中部本部 愛知県支部

目 次

第 1 号報告 2024 年度 事業報告、決算報告	1
1.1 支部の活動内容	1
1.2 支部の会合	1
1.3 講演会等の開催実績	1
1.4 見学会の開催実績	2
1.5 総務広報委員会の活動内容	2
1.6 例会の詳細	2
1.7 防災委員会の活動内容	3
1.8 決算報告	5
1.9 支部会員データ	7
 第 2 号報告 2024 年度事業計画並びに収支予算	8
2.1 事業推進の方針	8
2.2 具体的施策	8
2.3 支部活動計画	8
2.4 予算案	10
 関連資料	11
愛知県支部の運営における個別事項に関する手引き	11
愛知県支部組織	13
県支部委員会の所掌事項	14
 別冊資料	
愛知県支部社会貢献委員会 2024 年度活動報告及び 2025 年度活動計画	

2024年度事業報告

(2024年4月1日～2025年3月31日)

1.1. 支部の活動内容

2023年に愛知で開催された技術士全国大会は無事終了し、ようやく以前とほぼ同じような活動ができるようになった。支部としては、全国大会を経験したことにより様々なイベントや実務の企画運営力は底上げされていると考える。一方で、これまで取り組んできた様々な支部業務の見直しによる効率化も進め、支部専用のPC導入やWebシステム活用の習熟によりハイブリッド方式運用力の向上も進んだ。さらには例会の開催回数の見直しも実施し、支部役員らの負担軽減も考えて回数を減らしたが、例会の質そのものは維持または向上させるよう進めてきた。例会の参加者募集方式としては、統括本部のWebシステムを用いた方法が定着しつつある。

支部としては、役員会、委員会、年次大会、例会、ワーキンググループ、防災支援活動などを実施した。Webと対面の両方で実施するいわゆるハイブリッド方式はほぼ定着したが、発信力強化やそれに伴う例会などの参加者数の拡大などは今後の課題と感じた。

(1) 支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

6月8日にWebと対面のハイブリッドで年次大会を開催。

(2) 役員会及び委員会

- 1) 支部長を含む23名で構成された支部役員会を6回開催
- 2) 委員長を含む7名で構成された総務広報委員会を1回開催
- 2) 委員長を含む6名で構成された社会貢献委員会を1回開催
- 3) 委員長を含む12名で構成された防災委員会を4回開催

(3) 行事

- 1) 企画研修委員会による見学会と業績発表会を開催
- 2) 社会貢献委員会による9月講演会を開催した。
- 3) 防災委員会（中部本部建設部会・中部本部防災支援小委員会共催）による講演会を2回開催

(4) その他

- 1) 社会貢献委員会食問題研究会では「食に関わる問題の研究及び自己研鑽」を11回実施
- 2) 同じく、社会貢献委員会企業活動研究会では「環境・品質・安全とISO国際規格など企業活動に関する諸問題の研究」を11回実施。
- 3) 同じく、社会貢献委員会「わいがやフォーラム」では「地域・中小企業支援、技術者の技術テーマについて」1回の頻度で議論し、12回実施。
- 4) 防災委員会では愛知県内町村の災害支援活動の一環である技術講習会を3回実施。

1.2. 支部の会合

区分	年次大会 (全体会合)	役員会	委員会	講演会 など	見学会	その他	計
回数	1	6	6	2	1	34	50

1.3. 講演会等の開催実績

開催日	講演名	講演者所属	講演者 (敬称略)	参加人数
2024年5月18日(土)	R6能登半島地震から考える災害廃棄物対策のこれから	名古屋大学	平山修久 准教授	68
2024年6月8日(土)	文学のキャリアハイを目指した『鬼女（おにおん）～平和のメッセージとこだわった和算～	歴史作家	鳴海 風	35

2024 年 9 月 22 日(日)	「技術進化と人類共生」：新しい時代の課題と機会にどう応じるか	技術士（経営工学部門）	新美由香史	8 2
	技術士がより早く・広く・深く活躍するための生成 AI 活用法	エイアイビュー株式会社代表取締役 技術士（情報工学部門）	石川英司	
2024 年 11 月 16 日(土)	熱海土石流災害をふりかえる	名城大学	小高猛司教授	5 2
2024 年 3 月 22 日(土)	食のおいしさの定量化～主観評価から客観評価へ～	跡部技術士事務所 代表 技術士（農業、総監）	跡部昌彦	3 0
	公共事業の課題解決へ～建設 DX と xR 技術導入による現場革新について～	技術士事務所エムバース（ニチイコンサルタント株式会社／株式会社エムバース代表取締役 CEO） 技術士（建設、上下水道）	森川友博	

1. 4. 見学会の開催実績

開催日	見学会名称	参加人数
2024 年 11 月 22 日(火)	「知の拠点あいち」（公財）科学技術交流財団の視察ツアー	2 3

1. 5. 総務広報委員会の活動内容

2024 年度は、2023 年 11 月 17～20 日に行われた第 49 回技術士全国大会（愛知・中部）に注力した影響が尾を引き、一部の活動が停滞するも、役員会事前の議事項目の集約は継続して計 6 回行っており、各回、審議・報告事項を整理して役員会に臨んできた。なお、個別には 2025 年度年次大会（2025 年 6 月 7 日）の開催場所の検討（ツドイコ C に決定）をメール審議にて行っており（1 回）、本役員会にて確定させている。

1. 6. 例会の詳細

(1) 第 1 回例会 「講演会」 社会貢献委員会（わいがやフォーラム WG）

日 時：2024 年 9 月 22 日(日) 13:30～17:00

場 所：東別院会館及び Web による開催

参加者：82 名

テーマ：生成 AI の出現、その解説と対応

<講演 1>

演題：「技術進化と人類共生・新しい時代の課題と期待にどう応じるか」

講師：技術士（経営工学部門）

新美由香史氏

「瑠璃色の地球」や「青いふわふわした化け物」の画像を題材にして、生成 AI は既存の画像データを集約・統合しているのではなく、新しい画像を生成する技術であること等をご紹介頂いた。また、本講演の本質は「哲学的思考と悟り」であり、生成 AI が貫いているのは「意味」であることをご紹介頂いた。生成 AI の理屈や仕組みが何となくイメージできた。

<講演 2>

演題：「技術士がより早く・広く・深く活躍するための生成 AI 活用法」

講師：エイアイビュー株式会社代表取締役、技術士（情報工学部門）

石川英司氏

数日前にリリースされたばかりの最新 AI である「OpenAI o1」についてご紹介して頂き、プロンプトの書き方が変わるなどをご紹介頂いた。「早く・広く・深く」についての講演では、多くの興味深い実演を実施して頂いた。名刺やチラシなどの写真からテキストや情報を読み取る実演や、マインドマップを深掘りして思考を深くする実演などもあった。

(2) 2024 年度第 2 回例会（企画研修委員会開催）見学会

日 時：2024 年 11 月 22 日（金） 14:00～17:30

場 所：知の拠点あいち（豊田市八草町秋合 1267-1）

参加者：21 名（愛知県 18 名、岐阜県 1 名、三重県 1 名、静岡県 1 名）

目 的：「知の拠点あいち」の見学と合わせ、運営する科学技術交流財団から事業紹介、競争的資金などに関する情報提供をいただく。技術士として知見を深めるとともに、愛知県支部として、また、企業内技術士として、独立技術士（コンサルタント業）として、「知の拠点あいち」、科学技術交流財団との連携を深める。

内 容：愛知県が付加価値の高いモノづくりを支援するために整備を行った研究開発拠点である「知の拠点あいち」の施設内にある最先端のシンクロトン光利用施設や、高度計測機器、積層造形装置、瀬戸窯業試験場（2024 年新設）を見学し、最新の研究・技術動向を知ることができた。勤務先の会社やコンサル先との連携も図れそうで、私たちの味方になっていただけそうな機関であることがわかった。

（3）2024 年度第 3 回例会（企画研修委員会開催）業績発表会

日 時：2025 年 3 月 22 日（日）13:30～16:30

場 所：ツドイコ名駅東カンファレンスセンター Room-C、及び Web による開催

参加者：32 名（会場参加 20 名（うち発表者 2 名）、Web 参加 10 名）

目 的：技術士が行ってきた活動報告を通して、それぞれの技術分野でどのような考えで業務を進めてきたのか、また、今後どのような方向を目指していくのかなど、受講者の技術士活動の資質とする。

＜講演 1＞

演 題：「食のおいしさの定量化 ～ 主観評価から客観評価へ ～」

講演者：跡部技術士事務所 代表、技術士（農業、総合技術監理部門） 跡部昌彦氏

内 容：食品の開発において、安全性や栄養、健康などは定量評価が可能であるが、「おいしさ」だけは難しく、主観評価になりがちであった。この「おいしさ」について、味やかおり成分などの分析、分析型官能評価（味やかおりなどの違いの評価）、嗜好型官能評価（好き・嫌いの評価）、生体計測（脳波や脳血流など変化測定）によって客観的な定量データとして評価する手法と、その評価事例を話していただいた。

＜講演 2＞

演 題：公共事業の課題解決へー 建設 DX と xR 技術導入による現革新について

講演者：技術士事務所エムバース（ニチイコンサルタント株式会社／株式会社エムバース代表取締役 CEO）、技術士（建設、上下水道部門） 森川友博氏

内 容：インフラの老朽化による事故が多発し、高齢化と若手不足が進行する中、このままでは建設業界は立ち行かなくなってしまう。その解決策として期待されているのが、公共事業における建設 DX（デジタルトランスフォーメーション）や、AR（拡張現実）・VR（仮想現実）・MR（複合現実）などの xR（クロスリアリティ）技術といったデジタル技術の導入である。それを用いた現場効率化や課題解決の可能性について、実例を交えた話をしていただいた。

総 括：コロナ禍によって、中部本部や各県支部などの行事へのオンライン参加もできるようになり、いろいろな行事への参加機会が増えた。愛知県支部の行事との重複も見られるようになっており、私たちの行事のあり方を模索してきた 1 年間であった。コロナ禍前と比べて行事数を半分に減らし、かつ、より現場感を打ち出した企画を試みたが、愛知県支部の行事はいかにあるべきか、模索は続きそうである。

1. 7. 防災委員会の活動内容

防災委員会では、技術士としての災害時支援活動に関する検討や、講演会による会員の防災スキルの向上を図るための取り組みなどを進めている。2024 年度は、防災委員会を 4 回開催し、以下に示す具体的な活動を実施した。

（1）町村災害支援活動（技術講習会）

災害時支援に関連する活動の一つとして、愛知県内町村における職員の技術スキル向上と平時からのつながりを維持するため、2023 年度に引き続き以下の技術講習会を実施した。

【武豊町】

（講習内容）コンクリート実務講習会

（開催日時）第 1 回：2024 年 8 月 20 日（火） 13:30～17:00

第 2 回：2024 年 10 月 1 日（火） 13:30～17:00

（講師） 愛知県支部防災委員会 平野委員、後藤委員、平澤委員

(開催場所) 武豊町役場
(対象者) 武豊町職員 (第1回: 5名、第2回 3名)

【南知多町】

(講習内容) 愛知県「道路構造の手引き」舗装講習会
(開催日時) 2025年1月27日(月) 13:20~15:50
(講師) 愛知県支部防災委員会 中野委員、後藤委員
(開催場所) 南知多町役場
(対象者) 南知多町職員4名+建設課長

(2) 講演会の開催

中部本部建設部会・中部本部防災支援小委員会との共催により、防災に関連する講演会を開催した。2024年度は2回実施し、2023年度と同様にWEB開催とした。講演会の内容は以下の通りである。

＜第1回講演会＞

(日時) 2024年5月18日(土) 15:00~17:30 (WEB)
(テーマ) 「R6能登半島地震から考える災害廃棄物対策のこれから」
(講演者) 名古屋大学 平山修久准教授(防災工学、専門: 上下水道・災害廃棄物)
(参加者) 68名

＜第2回講演会＞

(日時) 2024年11月16日(土) 15:00~17:30 (WEB)
(テーマ) 「熱海土石流災害をふりかえる」
(講演者) 名城大学 小高教授(地盤工学)
(参加者) 52名

(3) 災害時支援活動計画(SAPD)の策定

統括本部では2022年に「災害時支援活動計画」を改訂し、中部本部においても統括本部と連携を図るため、2023年に中部本部版「災害時支援活動計画」を策定した。愛知県支部においても災害時において、統括本部ならびに中部本部と連携を図るため、2024年度、愛知県支部版「災害時支援活動計画(SAPD)」を策定した。

(4) 士業連携(士業連絡会への参画)

愛知県弁護士会が主体となって「愛知県災害復興支援士業連絡会設立準備会」を立ち上げ、愛知県内の各士業へ参画を要請し、2025年度より活動予定である。愛知県支部では設立準備会へ参画することとし、災害復興支援について他士業との連携を進める予定である。

「愛知県災害復興支援士業連絡会設立準備会」参加団体(予定)

愛知県弁護士会、愛知県司法書士会、愛知県行政書士会、愛知県不動産鑑定士協会、
NPO法人レスキューストックヤード、建築士会、愛知県精神保健福祉士協会、
愛知県土地家屋調査士会、名古屋税理士会、愛知県臨床心理士会、東海税理士会、
日本技術士会中部本部愛知県支部、愛知県社会福祉士会、法テラス愛知、
日本公認会計士会東海協会、日本弁理士会東海会、愛知県社会福祉協議会、
名古屋市社会福祉協議会

(5) その他

愛知県支部防災委員会の活動について、「技術士“ちゅうぶ”(第14号)」へ掲載した。

2024年 4月 1日から2025年 3月31日まで

統合会計（地域組織）
一般会計

愛知県支部
（単位：円）

科 目	予算額	決算額	差 異
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
事業収入	[750,000]	[212,796]	[537,204]
自主事業収入	(750,000)	(212,796)	(537,204)
参加費収入	550,000	209,000	341,000
外部依頼管理収入	200,000	3,796	196,204
地域組織収入	[850,000]	[850,000]	[0]
地域組織活動費収入	850,000	850,000	0
雑収入	[10,000]	[5,652]	[4,348]
受取利息	0	112	△ 112
雑収入	10,000	5,540	4,460
事業活動収入計	1,610,000	1,068,448	541,552
2. 事業活動支出			
事業費支出	[1,605,000]	[607,088]	[997,912]
事業広報費	(155,000)	(47,109)	(107,891)
会誌郵送費	5,000	0	5,000
ターネット運用費	10,000	47,109	△ 37,109
その他の広報活動費	140,000	0	140,000
研鑽費	(800,000)	(260,770)	(539,230)
講演会・見学会開催費	800,000	260,770	539,230
業務推進費	(650,000)	(299,209)	(350,791)
賃金	100,000	0	100,000
会議費	100,000	23,000	77,000
旅費交通費	250,000	89,600	160,400
通信運搬費	10,000	595	9,405
消耗品費	10,000	166,813	△ 156,813
印刷製本費	50,000	0	50,000
各種会合費	50,000	0	50,000
雑費その他	80,000	19,201	60,799
事業活動支出計	1,605,000	607,088	997,912
事業活動収支差額	5,000	461,360	△ 456,360
II 投資活動収支の部			
1. 投資活動収入			
投資活動収入計	0	0	0
2. 投資活動支出			
投資活動支出計	0	0	0
投資活動収支差額	0	0	0
III 財務活動収支の部			
1. 財務活動収入			
財務活動収入計	0	0	0
2. 財務活動支出			
財務活動支出計	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0

科 目	予算額	決算額	差 異
IV 予備費支出	0		0
当期収支差額	5,000	461,360	△ 456,360
前期繰越収支差額	3,766,000	4,202,412	△ 436,412
次期繰越収支差額	3,771,000	4,663,772	△ 892,772

貸借対照表

2025年 3月31日現在

統合会計（地域組織）
一般会計

愛知県支部
（単位：円）

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	4,592,772	4,181,538	411,234
現金	54,437	75,214	△ 20,777
普通預金	4,538,335	4,106,324	432,011
未収金	71,000	32,000	39,000
流動資産合計	4,663,772	4,213,538	450,234
資産合計	4,663,772	4,213,538	450,234
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	0	11,126	△ 11,126
流動負債合計	0	11,126	△ 11,126
負債合計	0	11,126	△ 11,126
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産	4,663,772	4,202,412	461,360
正味財産合計	4,663,772	4,202,412	461,360
負債及び正味財産合計	4,663,772	4,213,538	450,234

財産目録

2025年 3月31日現在

統合会計（地域組織）
一般会計

愛知県支部
（単位：円）

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金 額
(流動資産)			
現金	手元保管	運転資金として	54,437
預金	普通預金		4,538,335
	愛知/ゆうちょ銀行		4,182,736
	愛知/三菱UFJ銀行		355,599
未収金			71,000
流動資産合計			4,663,772
資産合計			4,663,772
正味財産			4,663,772

1. 1 0. 支部会員データ

会員数

(1) 各県下の個人会員数（中部本部傘下の会員数）

県 名	日本技術士会会員 (2025 年 4 月 15 日現在)		
	名誉会員及び 正会員	準会員	合 計
愛知県	777	173	950
岐阜県	184	45	229
三重県	110	36	146
静岡県	267	79	346
中部計	1338	333	1671

(2) 全国の個人会員数(2024年3月31日現在)

正会員及び名誉会員 16,241 名、準会員 3,148 名、合計 19,389 名

部門別正会員・準会員数(2025年4月15日現在)

部 門	愛知県支部			全 国		
正・準別	正会員及 び名誉会 員	準会員	合計	正会員及 び名誉会 員	準会員	合計
機械	160	52	212	1930	476	2406
船舶・海洋	0	0	0	22	6	28
航空・宇宙	24	2	26	84	35	119
電気電子	95	11	106	1900	383	2283
化学	27	2	29	503	151	654
繊維	4	0	4	98	8	106
金属	26	1	27	373	53	426
資源工学	1	0	1	57	4	61
建設	335	30	365	7248	842	8090
上下水道	57	4	61	1227	162	1389
衛生工学	46	3	49	591	88	679
農業	30	0	30	906	128	1034
森林	9	0	9	366	34	400
水産	3	3	6	216	28	244
経営工学	25	7	32	586	107	693
情報工学	40	5	45	875	297	1172
応用理学	38	2	40	916	90	1006
生物工学	6	4	10	229	120	349
環境	49	10	59	836	172	1008
原子力・放射線	1	1	2	234	23	257
総合技術監理	182	0	182	4871	1	4872

2025年度 事業計画

2. 1. 事業推進の方針

まずは人脈ネットワーク拡大による組織の活性化に取り組む。組織を元気にすることは波及効果が大きく、他の課題の解消に向けたエネルギーを生み出すことになる。最近進化の著しいWebや新システムなどを積極的に活用し、全国の技術士に向けての発信や情報収集にも注力する。そして技術士の資質向上を見据えて、質の高い例会やWG活動などを通じた継続研鑽の充実を図る。

会員の皆様へのサービスを第一に考えることはもちろんであるが、役員その他のメンバーの負荷のことも考慮に入れて、場合によっては的のある程度絞って出来ることを着実に取り組む。

2. 2. 具体的施策

次の3項目の具体策を実行する。

1) 会員へのサービスの質の向上

- ・役員らの負荷を考慮して実施内容を見直し、出来ることを確実に遂行する。
- ・全国大会にて得た経験を活かし、新たな取り組み方にもチャレンジする。

2) 人脈ネットワーク拡大による組織の活性化

- ・全国大会などを通じて得られた人脈ネットワークを有効に活用し、活動範囲を拡大する。
- ・新合格者、企業内技術者や大学生に対して、技術士会の魅力をアピールする。
- ・例会などの参加者数の向上と、会の運営に携わる人材を育成する。

3) より優れた継続研鑽による資質向上

- ・より質の高い例会やWGを通じ、多くの気づきや学びが得られるようにする。
- ・Webその他の新ツールを活用した新しい例会運営を確実に実施できるようにし、時代の流れを視野に入れた斬新な手法にチャレンジし、会員の満足度を向上させる。

2. 3. 支部活動計画

1) 例会（講演会）開催

2025年度は次のとおり。

- | | | |
|----------|----------------|---------|
| ・6月7日（土） | 年次大会：特別講演会 | |
| ・10～11月頃 | 第1回例会「見学会」 | 企画研修委員会 |
| ・12月 | 第2回例会「ワークショップ」 | 社会貢献委員会 |
| ・12月 | 第3回例会「講演会」 | 防災委員会 |
| ・3月下旬 | 第4回例会「業績発表会」 | 企画研修委員会 |

2) 役員会の開催

下記のとおりとする。（Teamsと対面のハイブリッドを基本とする。）

4月20日（日）午前、5月11日（日）午前、6月1日（日）午前、9月21日（日）午前、
12月14日（日）午前、3月22日（日）午前

3) 支部委員会活動

2025年度は各支部委員会の活性化及び統括本部、中部本部との組織の整合性を図るため、支部組織活動の見直しを行う。これまでの4委員会のうち、総務企画委員会と社会貢献委員会は相互連携を高める活動を進め、また従来の社会貢献委員会の名称を活動支援委員会(社会貢献)とし、防災委員会(社会貢献)とともにそれぞれの特色を生かした社会貢献活動を行う。その運用にあたっては、事務局内の運営(調整)委員により運営(調整)を図り、支部活動の統括及び取りまとめを遂行する。

3-1) 総務広報委員会

- ・例会等の運営
- ・統括本部、他地域本部、県支部及び委員会、部会等との連携方策
- ・県内一部地域における会員活動への支援

本年度は会場参加と Web を並立させた例会とし、企画研修委員会との間で更なる連携を図り、いつでもどこからでも参加しやすい環境とすることで、例会への参加者の増加を促進する。また、Web のみの開催行事では会員の参加費の無料を目指し、気軽に参加しやすい環境作り、及び行事の費用処理の簡便化を図る。

- ・別紙掲載の役割職掌に基づく今年度の活動の進行

3-2) 企画研修委員会

- ・愛知県支部の強みが発揮できる行事のあり方の検討
- ・見学会や業績発表会などの行事による会員の自己研鑽の推進供
- ・統括本部、他地域本部、県支部及び委員会、部会等との連携方策

3-3) 活動支援委員会

- ・ワークショップの立案、発信とその運営
- ・愛知県支部の会員による活動グループ(研究会)の運営
- ・他の社会貢献活動の強化

3-4) 防災委員会

- ・講演会の企画・運営(中部本部建設部会・中部本部防災支援小委員会との共催)
- ・災害時支援活動の一環である愛知県内自治体職員を対象とした技術講習会の開催
- ・平時並びに発災時における防災支援活動に関する検討ならびに愛知県版災害時支援活動計画(SAPD)の運用・改善
- ・「愛知県災害復興支援士業連絡会設立準備会」参画ならびに士業連携に関する検討

4) 支部会員数の拡大

- ・県内の企業内技術者や大学生に対して、技術士の魅力をアピール。
- ・講演会やネットを通じて技術士会に参加することの意義とメリットを発信。

2. 4. 2025 年度 予算案

公益社団法人日本技術士会 中部本部愛知県支部 2024 年度予算案
(2025 年 4 月 1 日から 2026 年 3 月 31 日まで)

(単位：円)

科 目	2025 年度 (予算案)	2024 年度 (決算)	2024 年度 (予算)
I 事業活動収支			
1 事業活動収入			
(1) 自主事業収入(参加費収入)	600,000	212,796	600,000
(2) 地域組織活動費収入	850,000	850,000	850,000
(3) 地域組織活動補助費収入(講演会・見学会補助費)	0	0	0
(4) 雑収入	10,000	5,652	10,000
事業活動収入計 (A)	1,460,000	1,068,448	1,460,000
2 事業活動支出			
(1) 事業費	1,395,000	607,088	1,395,000
① 事業広報費(インターネット運用費など)	155,000	47,109	155,000
② 普及啓発費(合同セミナー開催費など)	0	0	0
③ 研鑽費(講演会、見学会開催費など)	640,000	260,770	640,000
④ 事業促進費(対外活動促進費)	0	0	0
⑤ 業務推進費(会議費,旅費交通費,印刷製本代など)	600,000	299,209	600,000
(2) 管理費	0	0	0
事業活動支出計 (B)	1,395,000	607,088	1,395,000
当期収支差額(事業活動収支差額) (A) - (B)	65,000	461,360	65,000

※ 2-(1)-①：インターネット運用費 (55,000)、その他の広報活動費 (100,000)

※ 2-(1)-②：合同セミナー開催無

愛知県支部の運営における個別事項に関する手引き

2016. 3. 18 愛知県支部役員会制定

2017. 6. 11 愛知県支部役員会制定

2021. 6. 6 愛知県支部役員会制定

(目的)

第1条 この手引きは、「地域組織の設置運営に関する規則第16条」(個別規則の制定)第1項第4号及び「地域組織運営における個別事項を定めるモデル手引に関する規則」に基づき、愛知県支部(以下、「当支部」という。)の運営について個別の事項について定める。

第1章 基本運営

(役員会の開催)

第2条 役員会は、毎年6回以上の開催を基本とする。

(副支部長および幹事の定数)

第3条 副支部長の定数を5名以内とする。

2 幹事の定員を30名以内とする。

(運営組織)

第4条 別記表1に掲げる委員会等を設置し、当支部の運営に当たる。

(委員会)

第5条 委員会は、別記表2に掲げる事項を所掌する。

2 委員会委員の定数は、委員補佐を除き30名以内とする。

(交通費支給範囲)

第6条 当支部は以下の場合、対応した会員の交通費について実費相当額を支給することとする。

- (1) 当支部の代表として出席する外部団体の会議等
- (2) 地域組織委員会が主催する行事運営要員としての行事の参加
- (3) その他、特別な理由により支部長が承認した場合。

第2章 協賛団体

(協賛金)

第7条 協賛団体からの協賛金は、1口20,000円(年間)とする。

(協賛団体の扱い)

第8条 協賛団体の取扱いは、次のとおりとする。

- (1) 協賛団体の代表又はその代理者は、当支部年次大会に出席し意見を述べることができる。
- (2) 協賛団体は、当支部会誌又はその他刊行物の配布を無償で受け、当支部の事業成果を当支部の了解を得て利用することができる。
- (3) 協賛団体の構成員は、当支部が主催する会合、講演会等(懇親会は除く)に参加する場合、

参加費については、協賛金 1 口当たり 10 名まで無料で参加することができる。

第 3 章 事務局

(所在地)

第 9 条 事務局事務所は、名古屋市に置く。

(体制)

第 10 条 事務局体制は、次のとおりとする。

- (1) 事務局長 (正会員 1 名)
- (2) 事務局次長 (当面置かない)
- (3) 事務局職員 (当面置かない)

(報酬)

第 11 条 事務局を務める以下の者には、実費相当の交通費の他、報酬については役員会で定めた報酬を支払うことができる。

- (1) 事務局長 常勤でない場合、原則無償とする。
 - (2) 事務局職員を置いた場合、本部長が決定した金額の報酬を支払う。
- 2 前項の規定に基づく報酬支払いに当たっては、支部長と本人又は派遣元との間において、報酬、勤務条件等を定めた覚書又は契約書を締結し、役員会に付議しなければならない。

第 4 章 依頼業務

〈依頼業務〉

第 12 条 当該地域における自治体又は企業等から技術士業務に関わる依頼があった場合の詳細については、別に定める「中部本部外部依頼対応要領」による。

第 5 章 その他

(事務所会議室利用)

第 13 条 事務所会議室の利用については、当支部長の下承を得なければならない。

(本手引きの改廃)

第 14 条 本手引きの改廃については、「地域組織の設置運営に関する規則」第 16 条の規定による。

(オンラインによる会議または例会の実施方法)

第 15 条 オンラインによる会議または例会の実施については、別に定める「Zoom アカウント使用の暫定ルール」による。

附則 (平成 28 年 3 月 18 日)

この手引きは、平成 28 年 3 月 13 日中部本部総務委員会の審議を経て、平成 28 年 3 月 18 日から施行する。

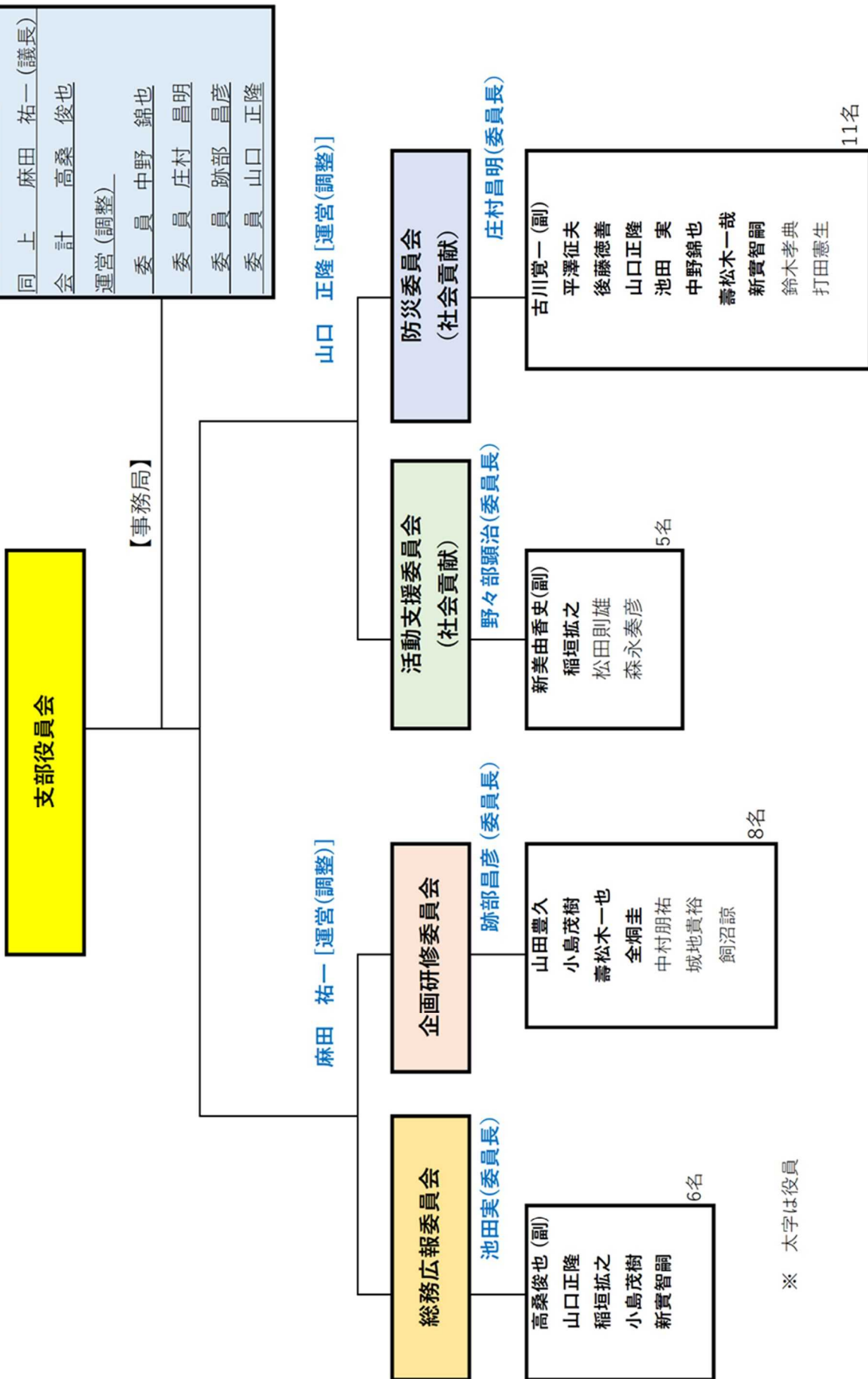
附則 (平成 29 年 6 月 11 日)

この手引きは、平成 28 年 11 月 20 日中部本部総務委員会の審議を経て、平成 29 年 6 月 11 日から施行する。

附則 (令和 3 年 6 月 6 日)

この手引きは、令和 3 年 6 月 5 日中部本部役員会の審議を経て、令和 3 年 6 月 6 日から施行する。

愛知県支部組織



※ 太字は役員

県支部委員会の所掌事項

総務広報委員会	(総務、会規、広報、情報交流) ・ 本会の秩序・信用の維持、運営管理及び会員の顕彰に関する所掌 ・ 技術士及び本会外部に向けた広報 ・ ホームページの活用に関わる企画、立案及び維持管理 ・ Webを活用した会議や例会のアカウント管理や運営に関すること
企画研修委員会	(企画、CPD研修、見学、講演会、研修) ・ 本委員会の事業実施についての全面的企画及び財務の管理に関する事項 ・ 技術士CPD推薦のための研鑽、講演会等諸行事の調査・企画・運営 ・ 技術士CPDの啓発
活動支援委員会 (社会貢献)	(活用促進・業務斡旋・WG・開業支援) 主に技術士会以外の組織や一般の方々に対し、技術情報の発信、指導、教育、相談などを通じて貢献し、地域経済や産業に寄与する。 主要な業務は、以下のとおり。 ・ 活用促進：技術士業務の活用促進支援。業務の受諾、紹介。 ・ 食問題研究；食文化と食の安全、生産技術やHACCP等の品質管理規格など食に係る問題の研究及び自己研鑽、並びに外部への発信。 ・ 企業活動研究：環境・品質・安全とISO国際規格など企業活動に関する諸問題の研究及び自己研鑽、並びに外部への発信。 ・ わいがやフォーラム：地域・中小企業支援、技術者の技術テーマ
防災委員会 (社会貢献)	(防災・減災支援に関わる活動) ・ 以下の防災・減災支援活動における愛知県支部の窓口 ①県内市町村などの要請に応じた支援活動（平時・発災時） ②災害時支援活動計画（SAPD）に基づく中部本部や他支部との連携 ③自治体等との支援協定の締結 ④他士業との連携 ・ 会員の防災スキル向上に資する講習会やセミナーの開催 ・ 防災・減災・復興（BCP含む）に関する諸問題の研究および自己研鑽、並びに外部への発信

愛知県支部社会貢献委員会
2024 年度活動報告及び 2025 年度活動計画

- 1 食問題研究会
- 2 企業活動研究会
- 3 わいがや WG
- 4 活用促進担当

2024 年度 食問題研究会の活動状況報告

2025 年 5 月 11 日

中部本部愛知県支部 社会貢献委員会 食問題研究会

1. 2024 年度の WG の主な活動状況

新型コロナ下では、様々な制約で、Zoom によるリモート会議での活動を余儀なくされたが、コロナの収束により、4 月と 5 月は、前年どおり Zoom によるリモート会議で実施したが、6 月度から。計画どおり対面での会議を復活させ、対面とリモートのハイブリッドでの会議で、第 93 回（4 月）から第 103 回(3 月)まで毎月約 1 回のペースで会議を開催できた。

当研究会は 1999 年の発足当時、食品品質ならびに環境規格の日本導入の流れを受け、HACCP を中核テーマに据えた勉強会として出発した。HACCP が食品衛生法に取り込まれた現在では、食品原材料調達、生産課題ならびに消費者に至るサプライチェーンを意識した幅広いテーマを設定している。

2024 年度は、技術士以外の一般参加者を含む毎回 5～9 人の参加者をもって、世相で話題になった社会的および技術的動向について議論をした。また上記に加え、東海地方の伝統食文化、食品業際の環境問題と関連する容器包装プラスチック生産技術やバイオテクノロジー関連の話題も適宜取り上げた。

ただ、技術士会会員と一般向けのワークショップについては、企画案は、作成したが、集金。管理方法について、支部幹事会との調整に手間取り、実施には、至らなかった。

2. 2023 年度の当初計画

1) テレビ会議システムの維持と発展

テレビ会議システムを継続するとともに、その在り方や発表方法の一層の発展を図る。また、適切な 時期に対面での会議も復活させることも検討する。

2) 食品関連情報の交換討議

食品と食文化、食の生産・流通・消費と食の品質と安全に関する情報の収集と討議

3) 食品関連情報のまとめと情報発信

技術士会会員と一般向けの情報発信への取り組み

3. 活動実績

1) テレビ会議システムによる活動の継続

6 月から中部本部の会議室を利用し、対面とリモートのハイブリッド形式での会議を開催した。ただ、共有画面が小さく見えにくいなど、資料閲覧上の問題は残っている。

2) 食品関連情報の交換討議

食品と食文化（伝統文化含む）、食の生産・流通・消費を念頭にサプライチェーン課題、食の品質と安全に 関食中毒の関連情報、食品添加物の安全性、食品ロスと廃棄物、食品容器・包装と環境問題、食品関連法規制等の多岐にわたった。当年は、令和のコメ騒動に象徴される食料生産問題も討議話題とした。

3) 食品関連情報のまとめと情報発信

当研究会以外の技術士会会員ならびに一般向け情報発信の取り組みは、検討を重ねてもいまだ有効に機能できておらず、2025 年度の課題とする。また、我が国の食をとりまく問題について、広く議論するワークショップを企画したが、ワークショップの集金・管理方法をめぐって幹事会との調整に手間取り、実現するには及ばなかった。主たる情報発信の相手を一般の人にするか会員にするかばワークショップを企画する上での大切なポイントであるが、この点について、さらに議論が必要であり、今後の課題としたい。

4) その他

食と医療等その他の関連問題についても、不定期であったが会員各位から情報提供があった。

4. 予算と実績

前年度同様、Zoom での対応が中心であり、活動費は、発生していない。

(代表 長谷川：会計本堀雷太)

2025 年度 食問題研究会活動計画(案)

2025 年 5 月 11 日

中部本部愛知県支部 社会貢献委員会 食問題研究会

1. 今期の基本方針

食問題研究会(旧 HACCPWG)は、1999 年 8 月に発足し、2025 年で、26 年目を迎える。当初は、食品の安全・品質管理システムと第三者機関による認証システムの導入の普及を目指す、勉強会(HACCP WG)として発足したが、その学習が、一段落した後、愛知県支部の発足に伴い、広く食に係わる問題を議論する場である食問題研究会として活動してきた。この間、第三者機関による認証システムの導入、普及は進まず、結果的には、2018 年法体系の中に HACCP システムによる管理システムを組み入れる形で食品衛生法が改正され、この問題は、一応決着することになった。しかし、食のグローバル化と食品の生産・保管・加工技術の急速な進展は、調理済み食品や健康補助食品の普及と増大等我々の食生活に重大な影響を及ぼすと共に、遺伝子組み換えやゲノム編集食品や人工肉、培養肉の出現等の新たな食環境をもたらそうとしており、こうした中で、ウクライナ戦争にみられる地政学的リスクが、食料や肥料のサプライチェーンの不安定化を通して、食生活の根幹を脅やかす現実にも直面している。そして、それは、昨年からの令和の米騒動に象徴される食料価格の高騰と云う形で健在化しつつある。食をめぐる問題は、26 年前とは、全く異なる新たな段階を迎えたと云える。このため、今年度は、今までの議論や資料をあらためて総括し、今後の食問題の着目すべき領域と視点をまとめる年度としたい。

2. 今年度の主な活動内容

1) テレビ会議システムと対面会議の併用による議論の活発化

テレビ会議システムと対面会議の併用の方法を改善し、議論の一層の活発化をはかる。

2) テーマに沿った食品関連情報の交換と討議

食の生産・保存・加工・流通・消費・吸収に係わる問題をテーマに沿って収集・議論する

3) 食品関連情報のまとめと情報発信

技術士会会員と一般向けの情報発信への取り組みを進める(講演会・WS・投稿等)

3. 定例会議とスケジュール

1) 毎月の定例会議 会議場所花車ビル 6 階会議室

会議の時間帯を午後に変更。Zoom の設定を 13:30~17:00 まで、企業活動研究会との一括設定とした

2) 定例会議スケジュール 対面と zoom によるリモート併用のハイブリッド形式会議

2025 年 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
定例	104 回	105 回	106 回	107 回	休 み	108 回	109 回	110 回	111 回	112 回	113 回	114 回
開催日 (曜日)	26 日 (土)	11 日 (日)	14 日 (土)	19 日 (土)	休 み	6 日 (土)	11 日 (土)	8 日(土)	20 日 (土)	31 日 (土)	7 日 (土)	14 日 (日)
司会 議事録	長谷川	長谷川	長谷川	長谷川	休 み	長谷川	長谷川	長谷川	長谷川	長谷川	長谷川	長谷川

長谷川(代表)・本堀(会計)

4. 概略予算 (単位: 円) 会計担当(長谷川・本堀委員)

WS 支部からの補助	50,000	月例会: 会議室使用料、10ヵ月×2,500	25,000
		Web 会議システム他	25,000
収入計		支出計	50,000

作成 文責長谷川

2024 年度(令和 6 年)企業活動研究グループの活動報告(案)

2025 年 5 月 11 日

中部本部愛知県支部 社会貢献委員会 企業活動研究会

1. 2024 年度の WG の主な活動状況

新型コロナ下では、様々な制約で、Zoom によるリモート会議での活動を余儀なくされたが、コロナの収束により、4 月と 5 月は、前年どおり Zoom によるリモート会議で実施したが、6 月度から。計画どおり対面での会議を復活させ、対面とリモートのハイブリッドでの会議で、第 288 回（4 月）から第 298 回(3 月)まで毎月約 1 回のペースで会議を開催できた。ただ、技術士会会員と一般向けのワークショップについては、ちから不足から実施、出来ず、メンバーがその主要な情報を技術士中部に論文の形で発表するのみとなった。

2. 2024 年度の当初計画

1) リモート会議システムの継続と発展

テレビ会議システムを継続するとともに、その在り方や発表方法の一層の発展を図る。また、対面での会議も復活させ、議論の活発化と充実を図る。

2) 事業継続を中核とする諸規格の動向報告と討議

デジタル化・セキュリティ・災害・貿易サプライチェーン動向や話題の情報交換と討議。

3) エネルギー・環境問題、安全保障等の動向報告と討議、

エネルギー・環境・安全保障問題の変化の展望と技術動向について情報交換と討議。

4) チャット GTP 等 AI、5G、IoT、メタバース、自動運転等情報技術の動向報告と討議

企業に影響を与えそうな技術革新関連動向の情報の交換と討議を行う。

5) 技術士会会員と一般向け討論会の開催と情報発信

本年度は、過去 25 年間を振り返り、経済安全保障を踏まえた地球温暖化問題、エネルギー問題、通信技術とサイバーセキュリティ、生成 AI の利用と法規制等を包括的に議論するワークショップを開催するようにする。

この課題に取り組む中で、さらに情報の整理と情報発信力を高める方法を模索してゆく一年としたい。

6) その他環境対策技術及び関係先からの要請対応

自治体や各種団体などからの要望に対応した活動は適宜幹事会と協議して行なう。

3. 活動実績

1) テレビ会議システムの継続と発展

6 月から中部本部の会議室を利用し、対面とリモートのハイブリッド形式での会議を開催した。ただ、共有画面が小さく見えにくいなど、資料閲覧上の問題は残っている。

2) 事業継続を中核とする諸規格の動向報告と討議

デジタル化・セキュリティ・災害・貿易サプライチェーン動向や話題の情報交換と討議をおこなった。

3) エネルギー・環境問題の動向報告と討議、

新聞、その他の情報をもちよりエネルギー・環境・安全保障問題の変化の展望と技術動向について情報交換と討議。

4) チャット GTP 等 AI、5G、IoT、メタバース、自動運転等情報技術の動向報告と討議

AI 革命の急速な進展に伴いほとんどの話題が AI の進化や応用の記事・話題の報告・討議に終始した。

5) 技術士会会員と一般向け討論会の開催

社会状況の急激な変動とハイブリッド会議の難しさもあり、議論がまとまらず、ワークショップの開催が出来なかった。

4. 予算と実績

Web 会議使用料とその関連費用は、支部管理下で行った。

(代表新美由香史 会計 長谷川欽一)

以上

1. 今期の基本方針

旧愛知県技術士会の WG として 1998 年に設立され企業活動研究会(旧 ISO14000WG)は、2023 年度もリモートでの会議で活動が続け、今まで合計 298 回(愛知県支部の社会貢献委員会の WG としては、103 回)の研究会を開催してきた。発足当時は、経済のグローバル化に伴う市場への対応としての企業のマネジメントシステムの ISO9001 や ISO14001 等の適合が大きく問題となる時代であった。企業活動の環境への適合性については、SDGs と云う形で残っているが、マネジメントシステムへの適合性とその有効性については、それ程重視されなくなっており、それに代わって、コロナ下で、急速に進化したデジタル化への対応、サイバーセキュリティ等が、大きな課題として意識されるようになった。とくに CAT GPT にみられる生成 AI の出現は、企業やその中で働く、技術者、労働者の仕事や企業活動の在り方を劇的に変化させつつあるが、その利用には、情報管理上の問題もある。また、ウクライナ戦争の直接的な影響下にある EU の動揺、中国の不動産バブルの崩壊、米国におけるトランプ政権の誕生は、我が国を取り巻く環境を劇的に変化させつつある。つまり、企業は、技術そのものの急変と貿易環境の二つの大きな変化に晒されていることになる。マネジメントシステムより、世界情勢と産業構造の変化にどう対応すべきか、企業とその中で働く技術者にとって正念場となる時代がやってきている。今期は、こうした世界と技術の劇的変化を企業とその中の技術者がどのように受け止め対応してゆくべきか、過去 25 年間の日本の企業活動を振り返りながら考える年にする。

2. 今年度の主な活動内容

1) リモート会議システムの継続と発展

対面での会議の充実を図るとともにリモートを併用したハイブリッド形式での会議を継続し、AI の活用を含めてその在り方や発表方法や議論の集約方法等の充実を図る。

2) AI 革命を中心とした技術革新動向の報告と討議

デジタル化・セキュリティ・災害・貿易サプライチェーン動向や話題の情報交換と討議。

3) 気候変動とエネルギー問題

世界と我が国の気候変動とエネルギー情勢に係わる情報の取集と討議

4) インフラと災害対策問題

劣化する日本のインフラや災害に係わる技術動向の情報収集と討議。

4) 技術士会会員と一般向け討論会の開催と情報発信

本年度は、過去 25 年を振り返り、我が国を取り巻く世界経済安全保障を踏まえた地球温暖化問題、エネルギー問題、通信技術とサイバー生成 AI の利用と法規制等を包括的に議論するワークショップを開催するようにする。この課題に取り組む中で、さらに情報の整理と情報発信力を高める方法を模索してゆく一年としたい。

5) その他環境対策技術及び関係先からの要請対応

自治体や各種団体などからの要望に対応した活動は適宜幹事会と協議して行なう。

3. 定例会議とスケジュール

1) 毎月の定例会議 毎月第 2 土曜日 15:15～17:00 (花車ビル 6 階 会議室)

会議の時間帯を変更短縮した。Zoom の設定を 13:30～17:00 まで、食問題研究会との一括設定とした

2) 定例会議スケジュール 当面 zoom によるリモート会議

2025 年 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
定例	104 回	105 回	106 回	107 回	休 み	108 回	109 回	110 回	111 回	112 回	113 回	114 回
開催日 (曜日)	26 日 (土)	11 日 (日)	14 日 (土)	19 日 (土)	休 み	6 日 (土)	11 日 (土)	8 日(土)	20 日 (土)	31 日 (土)	7 日 (土)	14 日 (日)
司会 議事録	長谷川	長谷川	長谷川	長谷川	休 み	長谷川	長谷川	長谷川	長谷川	長谷川	長谷川	長谷川

新美 (代表)・長谷川 (会計)

4. 概略予算 (単位: 円) 会計担当 (長谷川・新美委員)

WS 支部からの補助	50,000	月例会: 会議室使用料、10 ヶ月×2,500	25,000
		Web 会議システム他	25,000
収入計		支出計	50,000

1. 活動の目的

- ◇ メンバー会員の輪番制あるいはその都度気づいた問題に関して発表、ワイワイ・ガヤガヤと討議・意見交換しメンバー間で相互の理解と各人の知見を深める。
- ◇ これらの討議の過程で得られた成果を会員技術士のみならず広く一般社会にも発信し、社会の厚生に寄与することを目指す。

2. 2024 年度活動履歴

(1) 月度例会

前年度に引き続き Zoom によるリモートで開催した。

日付	講師(敬称略)	テーマ
2024/4/24	久慈 聡	うるう秒
2024/5/29	稲垣 弘之	数値計算のためのニューラルネットワーク
2024/6/26	森永泰彦	どう生きる 人新世
2024/7/24	高木 俊一	世界で最も高価な素材 15 選
2024/8/28	前田 武光	電気とは (i)
2024/9/25	山口 正隆	“古代の超技術を探る ～歴史的建造物・古代遺跡の基盤～”
2024/10/30	花井 健夫	化学物質のリスクアセスメント義務化～自主的な労働安全衛生マネジメントシステムの実行を～
2024/11/27	井上 祥一郎	服部禎男の足跡を追いつつ・核エネルギー技術のあれこれ
2024/12/25	盛田 直樹	今現場で起きている技術格差と高速道路業界動向
2025/1/22	長谷川 欽一	自然災害における防災・減災
2024/2/26	水野公元	インバータに利用されるセンサーについて
2025/3/26	野々部 顕治	PFAS とは

(2) 講演会

日 時：2024 年 9 月 22 日(日) 13:30～17:00

場 所：東別院会館及び Web による開催

参加者：82 名

テーマ：生成 AI の出現、その解説と対応

<講演 1>

演題：「技術進化と人類共生 - 新しい時代の課題と期待にどう応じるか」

講師：技術士（経営工学部門）新美由香史氏

「瑠璃色の地球」や「青いふわふわした化け物」の画像を題材にして、生成 AI は既存の画像データを集約・統合しているのではなく、新しい画像を生成する技術であること等をご紹介頂いた。また、本講演の本質は「哲学的思考と悟り」であり、生成 AI が貫いているのは「意味」であることをご紹介頂いた。生成 AI の理屈や仕組みが何となくイメージできた。

<講演 2>

演題：「技術士がより早く・広く・深く活躍するための生成 AI 活用法」

講師：エイアイビュー株式会社代表取締役、技術士（情報工学部門）石川英司氏

数日前にリリースされたばかりの最新 AI である「OpenAI o1」についてご紹介して頂き、プロンプトの書き方が変わることをご紹介頂いた。「早く・広く・深く」についての講演では、多くの興味深い実演を実施して頂いた。名刺やチラシなどの写真からテキストや情報を読み取る実演や、マインドマップを深掘りして思考を深くする実演もあった。

3. 今年度の活動

(1) 月度例会

高齢者も多く、遠隔地の参加者もいるので、リモートでの開催を念頭において進める。なお、話題提供は以下を予定している。

日付	スピーカー	テーマ
2025/4/30	大磯勇己	AI サービスの仕事利用を始めよう
2025/5/**	松田則雄様	脳科学と AI
2025/6/**	久慈 聡 様	
2025/7/**	稲垣拡之様	
2025/8/**	森永泰彦	(仮) 生成 AI に対して生産技術者は？
2025/9/**	高木 俊一様	
2025/10/**	前田 武光様	
2025/11/**	山口 正隆様	
2025/12/**	花井 健夫様	
2026/1/**	井上 祥一郎様	
2026/2/**	盛田 直樹様	
2026/3/**	長谷川 欽一様	

(2) 講演会

本年度は、講演会を実施しない。

活動支援委員会(旧社会貢献委員会)としては企業活動研究会にてワークショップを実施する予定であり、YGF(ワイガヤフォーラム)としてはそれに協力する形で取り組む。

以上

2024 年度愛知県支部社会貢献委員会
活用促進状況報告

1 実施状況

活用促進については、表 1 のとおりであった。

表 1 技術士業務の紹介の実績

発注者	件名	問合せ日	完了日
T 高等専門学校 環境都市工学科	技術士制度の説明に関する協力依頼 実例 を用いた技術者に求められる倫理観の醸成に 関する協力依頼	2024. 05. 01	2024. 10. 29